

有ル人ニモ時メク人ヲバ馳走シテ是ヲホウビシ常ニ榮花ヲ好ミ好味ヲ求テ酒色ヲ翫ブ風儀
 十人ニ八九人如斯也因茲主ハ被官ニ被放被官ハ主ヲ捨テ今日マデ傍輩ト成シ人ヲモ明日ハ
 主君ト仰ギ主ガ被官ニナリ被官ガ主ニ成風俗也而モ智アツテ智ニ迷ヒ義ヲ知テ義ニ迷フ誠
 ニ惡ヲ備ル風俗也

〔日本鹿子^五〕相模國名所之部

足柄山 同關 箱根山の北也いにしへの海道也今ははこね山を海道とせりと云

秋迄は富士の高根に見し雪を分て越ぬるあしがらの關

竹の下道 足柄山のうち也續拾遺集旅の歌に平の長時

あし柄の山のふもとに行かれて一夜宿かる竹の下道

八重山 はこね山の北なる山をいふ

ふりつもある雪の八重山道とちて行末うときあしがらの關

鎌倉里 北南へ遠き所也東は山西は海也谷々として谷合々々を居所したる跡あり入口七ヶ所皆

巖土手を切とをしたる總がまへ所々のこりて今に有鎌倉右大臣の歌に

宮柱ふとしまたて、万代に今ぞさかへんかまくらの里

鶴が岡 かまくら山のうち也若宮八幡立給ふくはしく神社の部に有之

年へたる鶴が岡部の松の葉の青みにけりな春のしるしに

六の浦 大倉谷を南へ行かまくらのうちを出れば此所を通る也

手本の浦 浪の瀬川 片瀬川 ちかきあたりは續きたる名所共なり

派てこし手本の浦のかひあらば千鳥の跡を絶すとはなん

御浦 越木の磯